

## 歴史と景観を生かしたまちづくり

— であい ふれあい まなびあい —

湊公民館

### 1 湊地区の概要

福井市中心市街地の西部に位置する湊地区は、交通の便がよく4つの区で構成され、閑静な住宅街が広がっている。中心街に近いことからアパートやマンションが多く、大学生や単身者、外国人居住者が多いことも特徴である。地区を東西にさくら通りが貫き、足羽川沿いには桜の開花時期に「桜のトンネル」として有名になった照手・木町さくら並木通りがあり、自然環境にも恵まれた地区である。

江戸時代には、足羽川沿いに船着き場の河戸(こうど)があり、米や塩、木材等の取引で繁栄した。「湊」の地区名の由来であり、今も「塩町」「木町」等の自治会名が残っている。また、江戸末期の歌人、橘曙覧が住んでいた「藁屋(わらや)」跡や福井藩家老、松平主馬(しゅめ)の別邸「三秀園」跡、坂本龍馬と三岡八郎(後の由利公正)が会談した旅館「菫(たばこ)屋」跡など数多くの史跡がある。平成21年には、当時の三秀プール前の足羽川堤防に「福井藩十二ヵ月年中行事絵巻」のレリーフが設置され、歴史のロマンを見ることができる。

令和2年2月1日現在、人口は8,875人、世帯数は4,262戸である。

### 2 桜並木を生かした祭り

#### (1) 春の風物詩「越前湊さくら祭」

足羽川沿いの福井市照手1～3丁目の市道(照手・木町さくら並木通り)脇に植えられた桜の並木は地域の誇りである。春には「桜のトンネル」がお目見えし、訪れる人の目を奪う。「この名所を生かして湊地区ならではのイベントを」と、平成14年に始まった「越前湊さくら祭」は、今ではすっかり春の風物詩となり、毎シーズン地区内外の大勢の人でにぎわう。

開花時期に合わせて毎年4月に開かれる祭りは、企画・運営に協力する実行委員を募集し、各種団体と地域住民が協力し合い、地域全体で積極的な活動を行って盛り上げる。さくら並木通りに湊地区の各種団体や

飲食業者ら約20の露店が出店する「さくら楽市」が並び、メインステージでは、歌や音楽の演奏、ダンスなどが披露される。

平成最後となる「第17回越前湊さくら祭」は、「平成(とき)が終わり、また『たのしみ』がはじまる——」をテーマに4月6日(土)に開催し、昨年完成した「越前湊さくら祭テーマソング」が発表された。また、「福井藩十二ヵ月年中行事絵巻」の前の歩道に、畳2畳分の棧敷席を7カ所設け、来場者が桜や十二絵巻を見ながらゆっくりと祭りを楽しめるようにした。

この祭りで、地区民の絆を強め、「湊の宝」を発信していきたい。また、付近の史跡を通じて地区の歴史についても知ってもらいたいと考えている。



#### (2) 桜並木を彩る「ライトアップ事業」

越前湊さくら祭の一環として、3月末から4月上旬の約2週間、さくら並木通りに設置された66基の行燈が午後6時から10時まで点灯され、夜桜を彩る。以前は、ぼんぼりを桜の枝に取り付けてライトアップしていたが、枝を守るために行燈に変えた。そこで、38個のぼんぼりを使って、かつて足羽川の船着き場に集まった船の帆をイメージして「みなと竿燈(かんとう)」を作った。「みなと竿燈」は、湊地区のシンボルとして、同じ期間中、春の夜空を幻想的に照らす。

このライトアップは、平成28年度に福井市景観賞の風景部門賞を受賞した。



### 3 学校・地域と公民館が連携した湊フェスティバル

学校と地域、公民館の融合を図るため、平成13年に湊公民館祭り(湊地区文化祭)と湊小学校PTAバザーを共催にして「湊フェスティバル」と名付けた。平成20年には湊ふれあい福祉まつりも統合し、湊公民館主催、湊地区自治会連合会連絡協議会・湊地区社会福祉協議会・湊小学校PTA共催で、隣接している地の利を生かし、公民館と湊小学校の二会場を使って開催している。

公民館会場では、湊公民館で活動している自主グループの発表や作品展示、また、社会福祉協議会等のブースが設けられる。小学校会場には、子ども会育成会や児童館・児童クラブ等の体験コーナー、小学生の作品やスポーツ少年団等の活動紹介の展示がある。体育館ステージでは、地区内の幼稚園や保育園・こども園の園児、光陽中学校吹奏楽部等が演奏や合唱、踊り等を披露する。湊小学校PTAによるバザーも行われる。



昨年度から、湊小学校グラウンドに両会場を結ぶ「MINATOロード」を設けて両会場の行き来をやすくし、参加者や来場者の交流を一層図ることができるよう工夫した。子どもからお年寄りまで大勢の人でにぎわい、楽しいひと時を過ごしている。

### 4 地区にゆかりのある橘曙覧の顕彰事業

#### (1) 橘曙覧没後150年記念祭

平成30年は、幕末福井の歌人で国学者の橘曙覧が死去してから150年の節目だった。湊地区には曙覧が20年間過ごし、終焉の地である藁屋跡(照手2丁目)がある。跡地には、妻が水くみの苦勞から解放されたのを喜び、歌を詠んだ井戸「袖干(そでひ)の井」が現存する。そこで、湊地区民による手作りの「橘曙覧没後150年記念祭」を8月末の2日間にわたり開催し、曙覧を偲ぶとともに功績をいかに伝えていくかを検討した。

1日目は藁屋跡において、福井市立郷土歴史博物館長で氣比神社(越前町)の宮司による神事が厳かに行われた。2日目は、湊公民館で記念イベントが開かれ、湊地区在住で福井市歴史ボランティア「語り部」相談役の記念講演で幕を開け、続いて福井市立郷土歴史博物館長と橘曙覧記念文学館の学芸員、橘曙覧全国子孫会

事務局の3氏が「曙覧をいかに伝えるか」をテーマに意見交換を行った。



また、記念事業の一環として、小学生とその保護者対象の「あけみウォークラリー」や湊公民館郷土学習「橘曙覧史跡めぐり～曙覧の生涯や歌を学ぶ～」を実施し、曙覧のゆかりの地や関連施設を巡った。

#### (2) みなと独楽吟の募集

平成30年の記念事業では、曙覧が詠んだ「楽しみは」で始まり「とき」で終わる短歌「独楽吟」にちなみ、「みなと独楽吟コンクール」を実施した。今年度も小学生・中学生・一般の部に分けて「みなと独楽吟」を募集した。部門ごとに賞を決め、入賞者を湊フェスティバルの開会式典で表彰し、作品を展示した。橘曙覧の業績を顕彰し後世に伝えていくために、今後も継続していく予定である。



### 5 終わりに

越前湊さくら祭を通して、若い人たちが地域活動に参画している。平成28年に、地区内外の40、50歳代の約50人が参加して湊まちづくり協議会が設立され、さくら祭の企画、運営に携わっている。行燈によるライトアップや「みなと竿燈」も同協議会のアイデアで実現した。従来のさくら祭とは様変わりしたことから、各種団体長らとの間で企画段階から活発な話し合いが行われた。そして、お互いに知恵を出し合いながら、より進化した祭が行われている。祭に訪れた人たちが喜んでくれる姿を見ると、苦勞も吹き飛び、次へのステップにつながる。

さくら祭や湊フェスティバルなどの事業を通し、地域の絆を強め、情報発信していきたい。その中から住みよいまちづくりが実現していくのと思う。

市内でも最も早く防災会を結成して防災意識を高め、学童安全見守りプロジェクトの活動が知事表彰される等、安全・安心な地域づくりにも努めている湊地区。今後も、地区への愛着を深め、連帯感を高める活動を展開していただきたいと思っています。